

買い物支援事業「マイバックでお出かけ」
集落の仲間と和気あいあいマイクロバスに
乗込み村上方面へ買出し



今回で18回目になった明治大学農学部 小田切徳美教授とゼミ実習生の「農村調査実習」と「調査報告会」



上、百姓やってみ隊一番人気のそば打ち体験。左、「愛のサツマイモ収穫プロジェクト」詳細は中面に

さんぽく地区
まちづくり
通信
no.41

さんぽく

中学生が考えた『おにぎり』販売

まちづくり協議会「委員実践活動」×「高校生」のコラボ事業を実施



おにぎり試作会とさんぽく祭での販売



企画から製作・販売までご協力いただいた大毎めぐみ工房様、大変ありがとございました。

昨年3月に開催した地域づくり学習会において、当時の山北中学校3年生が提案した「地元の食材を使ったおにぎり」を実際に製作し、さんぽく祭で販売しました。

現在高校1年生となった子どもたちも企画段階から販売まで参加。まち協委員と高校生でアイデアを出し合い4種類の「山北のめぐみおにぎり」を考案しました。11月のさんぽく祭当日、164パック(328個)準備したおにぎりは、あっという間に完売。高校生からは「達成感があり、山北に貢献できた」などの声もあり、よい経験をする事ができたと思います。

企画から製作・販売までご協力いただいた大毎めぐみ工房様、大変ありがとございました。

2025.3.14 発行号

山北防災士会 新潟県防災リーダー
本間 薫さんの「小ばなし」

願いは、みんなで一緒に減災

地震や洪水など自然災害にみまわれると、かけつける消防士や消防団がありますが、防災前はどのような？ 災害はいつでも起こりうるもので、「備え」が不可欠です。そこで、日ごろから知恵や力を出してくれるのが「防災士」です。

山北には防災士が36名(うち女性5名)います。消防士や消防団にくらべたら「高齢化(ここでもか!)」な現状ではありますが、

ゆけ！
チームさんぽく
防災士



左から防災士の
杠(ゆずりは)さんと本間さん。

いくつになっても取組める活動です。

さて、防災士になるには？「なりたい」気持ちがあればOK。教本を読んで勉強し、2日間の講習&筆記試験を受けて合格ならば資格取得です。

集落みんなで災害対策を学びたい、「自分に何かできないか？」という意識ある防災士なのです。

ただ、防災士には活動費もなく、防災士になったものの何からはじめよう？と、迷いがあるのも事実です。

『地域の人々と一緒に考えて、集落まるごと減災を。』いつも、そう思っていますので、地域の様々な集まりに、身近にいる私たち防災士を呼んでみてください。



地域を体感する「百姓やってみ隊」

一緒に活動を楽しむ
サポートメンバーを
募集します!!



地域のお祭り参加



そば打ち体験



塩辛づくり体験



農業体験



赤かぶ漬け体験

「百姓やってみ隊」は地域外の人々が農作業や生業体験などを通じて山北の魅力を体感する活動です。月1回程度の活動日に、サポートメンバーと一緒に活動してみませんか？

また「うちで川遊びや磯遊びの体験ができるよ」など、何気ないことだけど、これなら協力できるよという話も大歓迎。事務局までご連絡ください。

【編集・発行】

山北地区まちづくり協議会 事務局

TEL 0254-77-3111

s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp

〒959-3993 村上市府屋232番地(村上市山北支所内)

Home page



Facebook



災害によって発生する被害を最小限に抑えるために事前に行う取り組み

二拠点生活を楽しむひとびと

『小俣集落』と『新潟市』



二拠点生活をするにしたい理由は？
新潟市の実家で父の介護をする母のサポートをしながら、昨年より二拠点生活を始めました。パートナーの地元である山北に魅力を感じていたので、すぐに移住は難しいけれど少しずつ生活ができたらいいなと思ったからです。
現在、新郷屋が経営する新潟市の飲食店「新潟薬膳カレーRicca」で、主に運営などのマネージメント業務を担当しています。
今の仕事を活かした二拠点生活をしようと思いい年前から新郷屋のメイン事業である「越後もちもち鯛焼き」を山北のイベントで出店するようにになり、さんぽく祭では薬膳カレーやクラフトコーラも販売し、少しずつ関りを深めてきました。



絵美さん

えみ 新潟市東区出身。
子供の頃から「海は『笹川流れ』じゃないと入りたくない!」というほど山北は大好きな場所。時間が合えば、百姓やってみ隊に参加して山北を満喫しています。

村上岩船地区保護司会山北分区・山北地区更生保護女性会と山北中学校2年生の協働による

愛のサツマイモ収穫プロジェクト まちづくり協議会『地域づくり団体等支援事業』



昨年5月、保護司会山北分区と更生保護女性会が、山北中学校2年生と一緒に旧さんぽく北小学校の休耕地に、サツマイモの苗200本の植付けを行いました。
生徒は苗が定着するまで昼休みに水やりをし、除草や蔓返しなど農作業は保護司会と一緒に実施しました。
秋には200kgのサツマイモを収穫。「さんぽく祭」で販売し、生産から販売まで一連の流れを体験することが出来ました。
11月には関係者が給食と一緒に食べる食事をし、保護司会の本間さんは「子どもと大人と一緒に汗を流し、育て、一緒に食するというシンプルなことが、明るい地域づくりに繋がっていくのだと確信できた」と語っていました。



『山熊田集落』と『東京』



三井崇寛さん
みつ たかひろ 新潟県中蒲原郡亀田町（現・新潟市江南区）出身。
主にホームページをつくることを生業としてMITTS（みつ）という屋号で個人事業を営んでいる。東京と山熊田を行ったり来たり。それぞれの良さを感じながら生きてます。

二拠点生活をするにしたい理由は？

もうひとつの拠点である東京都青梅市は、23区ではなく西多摩エリアにある山に囲まれた約13万人の街です。青梅市はかつて織物産業で栄えた街で今も藍染工房があります。現・地域おこし協力隊の染色家丹羽梢さんとともに、山熊田にやってきました。
小さな個人事業ですから、経済規模を考えたときに移住ではなく「二拠点」という生活を選択しました。

最近「コントロールと予定調和の都市」と「自然の不定調和と知恵と経験の地方」という考えにもまれながら、間を行ったり来たりです。
山北地域を「どう」に？
『生きる』山熊田の生活から感じていることは、自然は人間を超越していて、コントロールなんてできない。不定調和の中、知恵と経験を蓄えて使って生きていく。
パソコン画面を見ながらキーボードを叩く。なんて自然の前では何も意味をなさない。「生きる」ってなんでしょう。良い意味で今までの価値観が全くかわってしまいました。
山北地域でやりたいことは？
民泊などの宿泊事業をやってみたいと考えています。ただ寝て泊まるだけの宿ではなく第一次産業の農・漁・林の方や地域の方との交流の窓口になれたらなと思っています。東京でも人口が減少してきていますから、移住者を増やすことはとても大変です。食べて、飲んで、遊んで、体験をして、山北を好きになって、ファンになる人を増やす活動ができたらいいな。なんて思っています。
山北地域がにぎやかになるためには？
新潟の山北ですが、日本の山北だし、世界の山北です。まずは広い範

囲に向けて情報発信をすることが大事だと思いました。そして、時代にあって伝えていける方・切り口を変えていく。（むずかしいことですが）大切なことだと思います。また、人口や経済規模を考慮すると、個人事業として経済活動がしにくいところがあるなど感じたりしています。
三井君を見かけたら？
ぜひお声がけください！
飲みたいです！（笑）スーパーでもスタンドでも。見かけた際は「みつ！」とお声がけいただけると嬉しいです。



集落活動にも積極的に参加し共に汗を流すことを大事にしている三井さん



住まいの困ったを解決！

株式会社ケンタク
TEL 77-4020 斎藤まで

春の訪れです！
外壁や屋根廻りの点検をしませんか
(株)マルカ工業 0254-77-2608
(株)マルカ工業一級建築士事務所 [担当 一級建築士 加藤 英人]
お住まいの困りごとお気軽にご相談ください